

活動レポート

道央技術士会

文責：道央技術士会幹事 高石富生

「第21回総会及び講演会」

はじめに

去る4月20日(金)に行われました「第21回道央技術士会総会及び講演会」について報告いたします。

開催日：2012年(平成24年)4月20日(金曜日)

開催場所：苫小牧ニューステーションホテル
多目的ホール

時間：17:00～20:00

総会は毎年室蘭と苫小牧で交互に開催されています。今年は苫小牧での開催となりました。

講演会は、当会会員でNPO法人「ゆうべあまちづくりネットワーク」理事の伊藤優子氏(建設・総合技術監理部門)に「植栽活動に見るソーシャルキャピタル」—マケドニアと日本の取り組み事例—という演題でご講演をいただきました。

その後、総会に移り、北海道本部事務局次長長井智典氏よりご挨拶をいただきました。次に、新合格者と新加入者の紹介がありました。さらに、事務局より今年度の行事予定の提案があり、最後に、技術情報交換会を行いました。参加者は、24名でした。

1. 講演会「植栽活動に見るソーシャルキャピタル」—マケドニアと日本の取り組み事例—

講師：伊藤優子氏(建設・総合技術監理部門)

NPO法人「ゆうべあまちづくりネットワーク」理事

概要：近年、ソーシャルキャピタルは、信頼や規範、人と人とのつながりなど協働関係を促進する目に見えない資本として、街づくりや地域活性化に関わる行政機関やNPOなどで関心が高まっている。例えば、国土交通省のVSP(ボランティアサポートプ

ログラム)では、官民協働による道路維持管理が行われており、北海道開発局では、官民協働による国道を活用した地域・景観・観光の向上をめざす“シーニックバイウェイ北海道”を展開している。



伊藤優子氏の講演

2011年訪問したマケドニア共和国では、民族問題の解決策のひとつとして実施している“異なる民族の子供たちが共同で植林するプロジェクト”が興味深い展開を見せていた。(『コンサルタンツ北海道NO.124』P24～29に「マケドニア滞在記」が報告されています。)

国道沿いの植栽も国土に苗木を植える活動も、環境や景観を向上させるだけではなく、関わった人たちの態度や行動に大きな変容を与えている事例がある。

- ・ ソーシャルキャピタルについて
- ・ マケドニア共和国の紹介
- ・ 植林プロジェクトの取り組み
- ・ シーニックバイウェイ北海道の生い立ちと活動
- ・ VSPの化け方

講演後の質疑応答及び技術情報交換会では、多数



講演会場の様子

の質問や意見が交わされ、今後への関心の高さをうかがい知ることができました。

2. 総会

・北海道本部事務局次長のあいさつ

日本技術士会 北海道本部事務局次長 長井智典氏
技術士会及び技術士をめぐる最近の動向についてお話しいただきました。

平成 23 年度技術士第一次試験および第二次試験の結果。技術士会北海道本部の会員数。統括本部(理事会等)からの話題。北海道本部からの話題。特に、来年 10 月に第 40 回技術士全国大会が 8 年ぶりに札幌で開催される旨のお知らせがありました。



長井智典事務局次長のご挨拶

・新合格者と新加入者の紹介

新合格者

永澤正則氏(建設部門)(株)メイセイ・エンジニアリング

新加入者

大塚和秀氏(機械部門)千歳空港給油施設(株)

田村 巧氏(生物工学部門)オエノンホールディングス(株)



永澤正則氏のご挨拶

・事務局からのお知らせ

本年度の行事予定(7月・11月の施設見学会・講演会、総会)の内容について、アイデアと要望の募集が呼び掛けられ、会員の勧誘についてのお願いがりました。

3. 技術情報交換会

長谷川哲也氏(イーシステム、建設部門)の乾杯の音頭で技術情報交換会が開会されました。

部門・地域・年代・所属を越えて、各テーブルで挨拶、名刺交換、技術情報交換が活発に行われました。

最後に苫小牧市副市長の中野裕隆氏の締めの発声を持って盛会の内に閉会いたしました。



中野裕隆苫小牧市副市長のご挨拶

おわりに

講演会において、ソフト面での社会資本整備の強化となるソーシャルキャピタルについて、興味深いお話と海外・地域の事例紹介がありました。

今後も、地域の活性化、会員の技術の研鑽と交流を図るために活動して行きたいと思っております。